

訪日外国人や富裕層の需要をけん引役に回復してきた消費の先行きに懸念が広がってきた。四半期ごとの消費関連企業の景況感を示す「日経消費DI」の1月調査は、業況判断が4期ぶりに悪化した。中国経済の減速などで訪日外国人需要に衣服感が出てきたほか、株価下落を受けて高額消費が落ちるとの見方が出ている。中間層の消費も鈍く、不安感が増している。（詳細を27日付日経MJに）

日経消費DIは「良い」と答えた割合から「悪い」の割合を引いた値。日本

## 日経消費DI 1月4期ぶり悪化

# 訪日・高額消費に陰り



## 中国減速で需要一服

経済新聞社が四半期ごとに調査しており1月下旬「伸び幅が若干減速してまでに194社から回答している」（日本百貨店協会）の青山理社長は「訪日外

を得た。業況判断は2014年4月の消費増税後にいったん落ち込んだ後は回復してきたが、今回はマイナス6と前回の10月調査から14ポイント下がり、4期ぶりに悪化した。全15業種のうち12業種で悪化した。都心では訪日客による免税消費が売上高の2割を占めることもある百貨店が9ポイント下落の0。暖冬で冬物衣料が振るわなかったことに加

ことが響いている。訪日外国人による大量買いが目立っていた家電量販店や紳士服店などを含む専門店が32ポイント悪化し、マイナス18になった。ヨドバシカメラの藤沢昭和社長は「昨年秋季くらいから中国人の購入額が減っている」と明かす。以前は数万円の炊飯器をひとりで5台購入するなどが目立ったが、売れ筋が単

国人対応は今後も進めるが免税の売り上げ頼みにはしない」と述べる。急増してきた訪日外国人消費が、15年10月から16年3月までの半年間でどれだけ伸びるか聞いたところ「0〜10%未満」が47・9%と半分近くを占めるなど、伸びが緩やかになっていくとの見通しが目立つ。

一方、最近の株価下落が富裕層消費に影響を及ぼすとの見方もある。百貨店では宝飾品や時計、家電量販店では4Kテレビなどが好調に売れ、株高による資産効果が富裕層消費を支えていた。